

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775300623		
法人名	社会福祉法人 福昭会		
事業所名	グループホームクレール(1)		
所在地	高石市西取石5-3-13		
自己評価作成日	令和2年10月30日	評価結果市町村受理日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2775300623-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15年目を迎え外観も明るい色になりました。理念をもとに一人一人に寄り添い住み慣れた地域で安心した生活を送ることが出来、日々笑顔で生活が送れるようにスタッフと共に力を入れています。コロナ渦の中で今までとは違った形の活動、新たな楽しみを見つけて皆さんと過ごしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは職員間の関係性はよく、利用者の心に寄り添う事や安心した生活等を謳った理念の下、利用者に多くの笑顔が見られるよう、一人ひとりに寄り添いながら会議などでその人に合った暮らしを考え、安心して暮らせるよう支援をしています。コロナ禍と利用者の重度化も重なり、外出が困難な状況ですが、2週間に1度訪問リハビリによる体操を全利用者が受けたり、毎日の体操やレクリエーション等で体を動かす機会を作り、楽しみながら身体機能を維持できるよう取り組んでいます。また食事は法人の厨房から旬の物や暦の上での行事にも配慮した食事が届いていますが希望などは会議で伝え、日々の食事は職員も共に食卓に着き談笑しながら同じ食事を摂り、時には利用者と共に焼きそばやカレー等を作ったり、たこ焼きやホットケーキ等のおやつ作りを行い楽しめるよう工夫しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念の掲示を示す事でいつでも見れるように、朝礼などで再確認、常に理念を持ち利用者と接することとしている。	開設当時に心に寄り添う事や安心した生活等を謳い作成された理念を継続し、事務所や玄関に掲示しています。理念はパンフレットに記載し外部へも発信し、職員の入職時や派遣受け入れ時には込められた思いを伝えています。管理者は朝礼や会議時等、利用者の安心した暮らしに繋がるよう職員が考える機会を作りながら理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し地域の行事、地域清掃などに参加し地域住民の一員として交流している。	利用者と一緒に近所のスーパーへの買い物や散歩時に出会った方と挨拶や会話したり、庭の花を貰う事もありましたが、コロナ禍となり現在は外出を控えています。回覧板や運営推進会議等から情報を得て恒例の公園の掃除には職員が参加しています。祭り等の地域行事や月2回本部と行っていた認知症カフェやボランティア来訪は中止中ですがコロナ収束後は再開に向けて話し合う予定としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉教育の一環として職員は地域の小学校、中学校などで福祉体験学習の講師などを行う又事業所として高石市高齢者SOSネットワーク事業に参加し地域の福祉活動への取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催。地域福祉委員、地域包括支援センター職員、利用者家族様で構成。施設の状況報告などを行い意見を求めサービスの向上に取り入れている。	会議は自治会役員を兼ねた福祉委員や地域包括支援センター職員、時にはホームの職員も参加し開催しています。利用者状況や活動、研修等の報告を行い、ヒヤリハットが生じた時は対策を含めて報告しています。参加者から情報をもらい社会福祉協議会が主催するカフェのクリスマス会等に利用者と参加しています。全家族に開催案内を行っていますが参加を得られず課題としています。	家族が参加しやすい日時の検討など、引き続き家族の参加に向けて取り組まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月例報告以外にも市の担当者とは連絡相談を行っている。事業所連絡会にも市の担当者が参加する場合には、お互いに情報提供を行っている。	運営推進会議開催の報告や毎月の提出物を窓口持参した際などに分からない事があれば質問しアドバイスをしています。市の担当者の出席があるSOSネットワーク事業への参加や事業所連絡会に参加し情報交換しています。また研修案内が届き参加したり、感染症に関する注意喚起などは職員に回覧し周知しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に盛り込み取り組んでいる。身体拘束適正化検討委員会設置委員会では職員から集めた問題点を話し合い拘束に繋がらないような対応で取り組んでいる。	年に3回～4回、身体拘束適正化委員会で話し合った内容を職員に伝達し周知に努めています。フロアや玄関はオートロックですが外に行きたい方にはできる限り職員が付き添って外に出るよう努めています。また言葉による制止が見られた場合は個別に呼んで注意し、会議時に研修を行い待ってもらう場合の声のかけ方などを具体的に伝え拘束の無い支援に取り組んでいます。	

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し研修内容を職員間で話し合い日々のケアの中で虐待に繋がらないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し成年後見制度をスタッフに理解してもらう。成年後見制度利用中の方がいるので分からない事は担当の先生に聞いて理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時相談の時点で詳しく情報収集や話し合いに努め、書類手続の際も重要事項説明を行った上で契約の締結を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置。また苦情相談窓口を書面でも明確にしているが日頃の面会時にも遠慮なく御意見、苦情等言って頂ける雰囲気作り家族様との良い関係作りに努めている。	利用者の希望は日々の中で聴き、コロナ禍以前は家族に相談しながら自宅に戻る機会を作るなど個々に対応していました。家族へは毎月様子を伝える手紙や季節毎の便りを送りホームの様子を伝えると共に日々の中でも細やかに連絡を取ったり、家族の面会時にも様子を伝え意見が無いかを聞いています。運営に関する意見は出難い状況ですが個別の要望にはその都度対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が法人会議に参加しホームで問題点、スタッフ会議会議などの内容を報告し職員の意見が反映出来る様に努めている。	会議は2~3ヶ月に1度行う職員会議の他、利用者の状態の変化や業務などの課題が生じた場合は随時会議を開き話し合っています。会議の際は事前に議案書を貼り出し職員から意見を募り、話し合い決まった内容については申し送りノートに記載し、不参加の職員にも周知しています。また入職した職員などは特に様子を見ながら声をかけ意見や希望を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に面談を行い職員の現状を把握し向上心を持って働けるようなやりがいのある職場にする様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて外部研修などに参加してもらい知識の向上、一人一人の力を伸ばせるように努めている。		

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所同士の連絡会、市職員を交えたSOSネットワーク事業等に参加し他事業所との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾けて信頼関係を築き安心を確保出来る関係作りにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族様の要望や不安を話しの中から見つけて家族様や本人が安心出来る関係作りにつとめる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で家族としっかり向き合い話しをする本人と家族様が必要とするサービスを見極めながら関係作りにつとめる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事、得意だったことを声かけて行っていただけるように環境作りをして共に暮らしていける関係作りにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは特に来訪時 情報提供し御意見や要望、助言などもいただき友の本人を支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様とのなじみの関係が途切れないように知人に合いこいたり知人が尋ねに来たり、自宅へ帰ったり交流を大切にしている。	友人や親戚等の来訪時は居室でゆっくり過ごして貰ったり、家族と共に自宅や墓参り、冠婚葬祭に出かける方もいましたがコロナ禍の現在は控えてもらっています。携帯電話で馴染みの人と話したり、友人と手紙や年賀状のやり取りをしている方もおり、便箋や葉書の準備や投函等を支援し、手紙を貰った友人が会いに来る事もあり、現状では玄関で顔を見てもらう等の配慮をし、関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席配置や好みの場所の確保など調整している。出来る人が出来ない人のお手伝いを積極的にすることで支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様など同じ地域で暮していることで顔合わせることもあり挨拶や情報のやり取りなどで相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者様の思いや要望をくみ取り家族と相談しながら本人の意向に添えるよう取り組んでいる。	入居に向けては病院や施設等へ出向き、本人や家族から思いや意向を聞いたり、関わりのある病院の看護師やケアマネジャー等からも情報を収集し意向の把握に繋げています。入居後は利用者の様子を見ながら職員が気付く事も多く、表情等から汲み取った思いや発した言葉等を個人日誌や申し送りノートに記載し共有したり、会議時にも意向が把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、今までの暮らし、入居までの生活状況など家族様、本人との会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを崩さないように日々の記録や健康状態など職員間での情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で利用者様の思いや要望をくみ取り家族と相談しながら本人の意向に添えるよう取り組んでいる。	介護計画作成時はアセスメントの基、本人の希望や来訪時に確認した家族の意向を基に担当者会議を開き作成しています。計画の実施状況は日々チェックしており、3ヶ月毎にチェック表を基にモニタリングや評価を繰り返し、変化の無い場合は1年毎に見直し、課題が生じた場合は随時見直しています。必要に応じて往診時などに確認した医師や看護師の意見を反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌やアセスメント、支援経過、主治医、訪問看護、衛生士などと連携を取り介護計画を作成している。		

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により柔軟に個別サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカフェノ場としても開放している。地域の方との交流の場として今まで楽しんできたような事が継続出来る様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定のかかりつけ医または本人と家族が希望した、かかりつけ医に往診に来ていただいたり、これまで通っていた病院に付き添い受診も支援支援している。	これまでのかかりつけ医を継続し往診を受ける方もおり、24時間連絡が取れる協力医は2週間に1度の往診の他、状況により随時の往診にも対応して貰っています。専門医への受診は医師宛に文書を作成し家族の対応が基本ですが職員が付き添う事もあります。週に1度の訪問歯科や2週間に1度理学療法士が来訪し全員が集団体操を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは連絡帳の活用と訪問看護では医療面での相談、アドバイスを得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、医療連携を図っている病院とは常に情報の共有に努め連携を取っていけるように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族様も含め話し合いを重ねて出来る事の方針を説明し共有して医療、家族、スタッフで支援に取り組むように努めている。	入居時にホームの方針として現状では終末期の支援は行っていない事を伝えています。食事が摂れなくなる等状態が変化した際は家族に状況を説明しています。一旦検査入院しその後療養型施設へ転居となる事が多く、回復し退院となった場合はできる限り長くホームで過ごせるよう支援しています。現状では看取りの体制が整っておらず将来を見据え看取りの研修を受講しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の研修に参加したり緊急時の対応マニュアルで勉強会等開催。緊急時は主治医に連絡を取り 提携病院にて対応している。		

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練に参加。消防立会いもあり利用者様も参加し地域との連携を築いている。	年に2回昼夜を想定し、1度は消防署の立ち合いの下、近隣に挨拶文を配布し、通報や利用者の避難誘導、消火器の使い方等の訓練を行っています。参加していた地域の訓練は中止ですが運営推進会議時に協力を依頼し、昨年大雨で停電した際は近所の方が心配し様子を見に来ています。食料は近隣の本部で準備し、ランタンや懐中電灯などはホームで準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた対応を柔軟にしている。職員間では言葉使いについて注意し本人のプライバシーを尊重しながら対応している。	接遇やプライバシー等に関する研修を其々年に1度行い、新人職員には日々の中で基本的な事を伝えています。敬語を基本に堅苦しく無く慣れ合いにならない事、子ども扱いしない事などを職員に伝えています。問題がある発言などは職員間で互いに注意し合う事の大切さも伝えています。同性介助の希望がある場合は意向に沿っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心に寄り添う理念を掲げて徹底している。寄り添い声かけし本人の思いや要望を表せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせたケアに努めている。体調の変化や気持の変化に気づき柔軟に対応するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事などは特におしゃれができる様に支援しその日が楽しく過ごせるように努める。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などのときは利用者様と楽しめるように、おやつ作りをしている。利用者様からのリクエストをもらいメニューを決めて調理から片付けまで個々に出来る事を手伝ってもらい楽しんでいる。外食も本人の希望にそって支援している。	ご飯と汁物はホームの専門スタッフが作り、副菜は近隣の法人厨房から旬の物や暦の上での行事に配慮した物が3食共暖かい状態で届いており、食事で気付いた事は検食簿や給食会議などで伝えています。誕生日にはお好み焼きや焼きそば、カレーなどの食事作りの他、たこ焼やホットケーキなどのおやつ作りを利用者と一緒に楽しんでいます。職員は日々利用者と一緒に同じ食事を摂っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養士が管理しカロリーや個々の食事形態に合わせて提供している。食事量や水分量を考えながら本人の好きな食べ物、飲み物も入れながら支援している。		

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで口腔内の清潔を保つようにしている。週1回の衛生士訪問により助言を貰っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態に応じた排泄ケアに取り組んでいる。動きや表情の観察しながら声かけ排泄の失敗が軽減するように取り組んでいる。その方ノ状態によりポータブルトイレも活用している。	個人の排泄記録を参考にリズムを把握し夜間おむつを使用の方も日中はトイレで排泄ができるよう支援をしています。排泄支援に関しては日々の中で随時話し合い、変更内容などは申し送りノートで共有しています。自宅でおむつとポータブルトイレを使用していた方はタイミングの合った支援の継続で失敗が減った方もおり、現状が維持できるよう支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、水分や食べ物などで工夫する。適度な運動や身体を動かすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿って入浴日を決めたり身体状態により回数を変更したり個別に対応している。四季により浴槽に入浴剤などを使って楽しんで頂いている。	入浴は週に2回から希望がある方は4回程度入ってもらい、午前中に支援しています。殆どの方が浴槽に入る事が困難な状況でシャワー浴ですが浴槽に湯を張り浴室を温めています。季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤を使用したり、好みのシャンプーや石鹸を使用する方もいます。強い入浴拒否の方ではなく声掛けの工夫や時間を変える等しながら無理の無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	合間には自身の部屋でくつろいで、自分の時間を楽しんでもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに薬フィルを作成し職員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を強制とせず参加して頂く声かけをしている。自分の役割として取り組まれる様子が見られる。近隣の喫茶店などに行き気分転換に外出支援もしている。		

グループホームクレール(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設近くに公園やスーパーがあり身体の負担にもならず気分転換が出来、外出が億劫な方にも働きかけている。車を出して少し遠方にも出かける。	以前は個別でドライブや外出に行ったり、地域の認知症カフェやサロンなどに出かけていましたが現在は外出を控えており、サロンなどはコロナ過で中止になっています。散歩を兼ねて近所の桜の花を見に行ったり、天気の良い日は敷地内のベンチに交代で出て外気浴などを行い気分転換を図れるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態により対応している。自分で自己管理できる方には家族様の同意のもと小額を持ち一緒に買い物などに行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状態に応じ電話対応や手紙、はがきのやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じて壁面に利用者様と考えた飾りを貼っている。自由に過せるソファを設置。テーブルも状況に応じて配置換えし雰囲気を変える。居心地よく過せるように支援している。	共用空間は毎月利用者と共にカレンダーや季節の作品を作って飾ったり、クリスマスや正月などの行事に合わせて飾り付けを行い季節を感じる事ができるよう配慮をしています。寛げるようソファを置き、食卓は仲の良い人が一緒に過ごせるよう配慮をしています。また廊下や小窓を開けて換気に留意し、日々掃除を行うと共に利用者が過ごし易いよう室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の要望に応じて色々な空間を作り出せるようにしている。着の合ったもの同士がソファに座って談話したり思い思いに過せるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を飾ったり自宅にいた頃の持ち物を持ってくることで居心地良く過せる環境を作っている。	使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、筆筒や鏡台などの家具やテレビ、使い慣れた寝具などを持参し家族が過ごし易いよう配置をしています。また大切な家族の遺影や写真を飾ったり、編み物の道具や作品を持参し、居室で毛糸などの編み物をする方もおり、その人らしく安心して過ごせるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かる様に好きな物をドアに貼ったり迷わない工夫をしている。		